

「自転車・福祉機器懇談会」の発足について

技術研究所が運営してきました外郭団体は、業界に技術交流と情報提供の場を提供して参りました。しかし社会情勢と業界の動向の変化の中で、「環境技術懇談会」が平成9年3月に解散のやむなきに至りました。

「自転車技術懇談会」は昭和49年7月に発足し、今年（平成9年）で23年が経過し、一方「車いす研究会」は昭和53年6月に発足し、今年（平成9年）で19年が経過しました。前者の設立の趣旨を見ますと、自転車業界の技術者の交流の場として、当技術研究所の研究成果を十分ご活用いただくことにより、技術研究所と業界の方々との一層の密着化を図るとともに、会員相互の技術交流、情報交換により、自転車技術の向上を図り、自転車化社会への健全な発展を促そうというものでありました。過去2年の行事内容を表1に示す。その趣旨は基本的には今も変わるものではありませんが、諸般の状況をかんがみながら、懇談会のより有効な運営につきまして検討模索をしてきました。すなわち自転車業界、車いす等福祉機器業界の動向、および技術研究所を取り巻く情勢を考えまして、この二つの外郭団体、「自転車技術懇談会」と「車いす研究会」を統合し、ひとつの懇談会として効率のよい運営を行い、会員にはより有効な技術的情報を提供できるものにする方向性でし

た。特に幹事会の幹事の方々のご意見をお聞きしながら準備を進めてまいりましたが、平成9年7月7日をもちまして新しい懇談会に引き継ぎまして、新しい名称、「自転車・福祉機器懇談会」にて今後の活動を行っていくことになりました。

長きにわたりましてご協力をいただきました会員の皆様、幹事の皆様には厚くお礼申し上げます。今後は「自転車技術懇談会」「車いす研究会」の事業、資産はそのまま「自転車・福祉機器懇談会」に引き継いでまいりますので、ご理解をいただきまして変わらぬご支援をお願い申し上げます。

さて「自転車・福祉機器懇談会」の設立の趣旨といたしましては、自転車および車いす等福祉機器に関する技術の向上を図るため、会員相互の技術交流および情報交換の場として活用するとともに、技術研究所の研究成果、施設の利用をもって、産業の発展、製品の品質改善に資することを目的としております。

会員のみなさまへより有効な情報を提供し、技術研究所とそれぞれの業界の方々との一層の密着化を図っていきたく願っております。

なお現在の会員数は、法人会員32社1団体63口、個人会員7名7口となっております。

表1 最近の行事内容

年	月 日	内 容
7	7 / 3～5	技術研修会 「自転車工学の基礎」
	9 / 27	特別講演会 「ツール・ド・フランスと新しい自転車機材」
	10 / 25	技術講習会 「自転車と身障者スポーツ」
	12 / 7, 8	研究会 「PL対応の具体的なマニュアルの作り方」
8	3 / 6, 22	技術講習会 「時代の要請にあった自転車の新しい設計」
	10 / 17, 18	技術講習会 「がんばれ技術開発」
	12 / 3～5	技術研修会 「車いすの工学的基礎」
9	3 / 4	講演見学会 「空気力学と自転車への応用」 中菱エンジニアリング（株）風洞実験装置見学
	4 / 16	特別講演会 「レース・アクロス・アメリカ」
	7 / 10, 14	技術講習会 「製品開発のための自転車技術」